

平成 26 年度第 1 回市民アンケート結果概要

(市長政策室広報部市民の声を聞く課 TEL 211-2045)

■ 設計

調査期間	平成26年(2014年)6月24日(火)～7月10日(木)
調査方法	郵送法
調査対象者	札幌市全域の18歳以上の男女10,000人
抽出方法	住民基本台帳からの等間隔無作為抽出

■ 回収結果

回収数	4,967通
回収率	49.7%

■ テーマごとの設問と主な結果

テーマ1 食の安全・安心について(保健福祉局保健所)

札幌市では、平成25年度より「札幌市安全・安心な食のまち推進条例」を施行し、市民(消費者)・事業者(生産者や販売者など)・行政がコミュニケーションを深め、連携・協働し、市民の皆さんが安全で安心な食生活を送ることのできるまちづくりを目指しています。

問1 食の安全・安心についての関心(複数回答)

	H26	H20
「賞味期限・消費期限表示」	75.3%	79.7%
「産地表示」	70.1%	72.3%
「品質・衛生管理」	67.8%	—
「食品添加物」	54.5%	40.4%
「農薬」	46.3%	—
「放射性物質」	35.1%	—
「食中毒予防」	30.4%	—
「アレルギー表示」	20.4%	6.6%

問2 ロゴマークの認知度

「①のみ知っている」	18.6%	18.0%
「②のみ知っている」	1.3%	—
「両方知っている」	4.0%	—
「両方知らない」	73.7%	—

問3 取り組みの必要性

「必要だと思う」	78.2%
「必要ないと思う」	3.8%
「わからない」	14.5%

問4 市民参加型事業への興味(複数回答)

「モニター事業(消費者目線でスーパー・飲食店等の衛生状態や表示の調査を行う)」	54.3%
「市民交流事業(市民が農園や食品工場等を見学し、事業者と意見交換する機会を設ける)」	34.7%
「興味はない」	24.2%
「子供食品Gメン体験事業(親子で保健所の食品衛生監視員の仕事の一部を体験する)」	18.1%

問5 札幌市が取り組むべきこと（複数回答） ※上位9項目	H26	H20
「製造所などでの衛生指導」	58.1%	49.5%
「食品の抜き取り検査」	45.2%	63.0%
「食中毒対策」	35.4%	22.6%
「表示の監視」	35.1%	39.1%
「法令違反の厳しい対応」	31.7%	39.0%
「事業者の自主的な衛生管理の推進」	26.8%	12.4%
「わかりやすい情報の提供」	21.4%	28.8%
「消費者、事業者、行政の間の情報・意見交換」	11.9%	21.0%
「市民相談」	2.0%	2.6%

問5-1 良いと思う情報提供方法（複数回答）※上位6項目

「広報さっぽろへの定期的掲載」	93.1%
「パンフレット配布」	44.1%
「食品関係のイベントを開催」	41.7%
「ホームページへ掲載」	41.4%
「SNS（フェイスブック、ツイッター等）」	12.8%
「メールマガジン配信」	9.2%

問6 事業者が取り組むべきこと（複数回答）※上位4項目

「自主的な衛生管理の推進」	71.9%
「わかりやすい表示の推進」	45.3%
「食品の自主検査」	38.1%
「消費者、事業者間の情報・意見交換」	21.3%

問7 自分自身に取り組めること（複数回答）※上位4項目

「表示に関する必要な知識を身に付け、商品を選択する（購入する）」	70.1%
「食の安全・安心に力を入れている店やメーカーの商品を選択する（利用・購入する）」	63.4%
「食品等の取扱いによって健康に悪影響を及ぼすことがないように、知識と理解を深める」	51.2%
「札幌市のホームページを見たり、市民参加型イベント等に足を運ぶ」	8.1%

問8 食の安全・安心についての意見

報告書P.10を参照

テーマ2 医療に関する相談窓口・かかりつけ医・在宅医療について（保健福祉局保健所）

戦略ビジョンの取組の一つになっている在宅医療や、開設から1年を迎える救急安心センターについて、市民認知度を調査し、今後の広報手法を検討するとともに、中間評価年度となるさっぽろ医療計画の今後の事業展開の参考とさせていただきます。

問1 救急安心センターさっぽろの認知度

「知っている」	43.0%
「知らない」	55.0%

問1-1 救急安心センターさっぽろの情報を見た経験（複数回答）※上位7項目

「広報さっぽろ」	50.5%
「テレビや新聞での報道」	44.3%
「医療施設や公共施設などのポスター・チラシ」	29.6%
「新聞広告」	11.2%
「テレビCM」	10.5%
「地下鉄・バスなどの公共交通機関の広告」	9.6%
「ラジオCM」	2.7%

問2 医療相談窓口の認知度（複数回答）

「どれも知らない」	75.9%
「産婦人科救急相談電話」	10.5%
「医療安全相談窓口」	8.9%
「精神科救急情報センター」	6.9%

問3 かかりつけ医について

「決めている」	58.5%
「決めていない」	39.6%

問3-1 かかりつけ医を決めていない理由（複数回答）※上位4項目

「病気になる機会が少ない」	54.1%
「病気の内容に応じて医療機関を選んでいる」	53.5%
「病気になってから医療機関を探せば十分」	12.9%
「大きな病院に行ったほうが安心できる」	10.1%

問4 健康診断の受診状況

「毎年受けている」	60.3%
「2年に1度くらい」	10.3%
「3年に1度くらい」	4.9%
「3年以上受けていない」	12.8%
「受けたことがない」	8.9%

問5 在宅医療の認知度

「聞いたことがあり、どのような医療かある程度知っている」	45.7%
「聞いたことがあるが、どのような医療か知らない」	49.6%
「聞いたことがない」	2.4%

問6 療養方法の選択

「入院」	54.7%
「在宅医療」	27.2%
「わからない」	15.9%

問6-1 入院を選択する理由

「入院したほうが安心できる」	39.1%
「在宅医療だと緊急時の対応が不安である」	5.9%
「自宅で面倒を見てくれる家族がいない」	13.2%
「家族や親族に迷惑をかけたくない」	39.4%
「在宅医療がどのような医療なのかわからない」	1.2%

問7 最期を迎えたい場所

「病院・診療所などの医療施設」	27.9%
「老人ホーム・介護老人保健施設・サービス付き高齢者向け住宅などの施設」	7.5%
「自宅」	36.4%
「わからない」	25.4%

テーマ3 札幌市内における救急行政の取組について（消防局警防部）

札幌市消防局で実施をしている取組みについて、市民の認知度を知ることによって効果的な広報の方法を探ります。

現在、札幌市消防局で実施している事業の市民認知度をあげることを成果指標として掲げており、こういった広報活動の方法が効果的なのかを検証します。

また年々増え続ける救急需要に対し、将来を見据えた救急業務の在り方などについて検討・検証するための指標とさせていただきます。

問1 救急車の利用経験

「ある」	59.3%
「ない」	39.9%

問1-1 救急車の利用理由（問1で「ある」方のみ）

「緊急に病院に行かなければ生命にかかわると思ったから」	85.4%
「早朝や深夜で公共交通機関がなかったから」	4.3%
「救急車で病院に行けば、早く診察してもらえそうだから」	2.6%
「どの病院に行ってもよいかわからなかったから」	4.2%

問1-2 救急車の到着時間について（問1で「ある」方のみ）

	H26	H19
「早く感じた」	37.6%	67.0%
「我慢できる範囲の時間であった」	47.3%	24.5%
「遅く感じた」	12.7%	4.7%

（どちらともいえない）

問1-3 救急車を利用する状況（問1で「ない」方のみ）

「緊急に病院に行かなければ生命にかかわると思う場合」	94.3%
「早朝や深夜で公共交通機関がない場合」	2.0%
「救急車で病院に行けば、早く診察してもらえそうな場合」	1.1%
「どの病院に行ってもよいかわからない場合」	1.8%

問2 応急手当普及講習の受講

「ある」	31.1%
「ない」	67.3%

問2-1 応急手当普及講習受講の理由（問2で「ある」方のみ）

「ホームページ、リーフレット、ポスターなどを見て、興味を持ったから」	2.6%
「知人などに勧められて」	6.1%
「とっさの時に、応急手当ができるようになりたいから」	16.9%
「仕事上で必要だったから」	46.3%

問2-2 応急手当普及講習継続受講の意思（問2で「ある」方のみ）

「是非、継続して受講したい」	11.5%
「機会があれば、継続して受講したい」	78.4%
「もう受講しなくてもよい」	8.6%

問2-3 応急手当普及講習の推薦（問2で「ある」方のみ）

「受講したほうが良い（はい）」	94.2%
「受講したほうが良いとは思わない（いいえ）」	2.3%

問2-4 応急手当普及講習受講の意思（問2で「ない」方のみ）

「是非、受講したい」	9.6%
「機会があれば受講したい」	77.6%
「受講したいとは思わない」	10.9%

問2-5 応急手当普及講習受講場所の認知度（問2で「ない」方のみ）

「知っていた（はい）」	27.3%
「知らない（いいえ）」	66.8%

問3 救急救命士同乗の認知度

「知っていた」	48.2%
「知らなかった」	47.9%

テーマ4 エコドライブの推進、次世代自動車の普及について（環境局環境都市推進部）

地球温暖化対策の一環として、市内運輸部門のCO2排出量の削減を図るため、市民のエコドライブに対する関心や実践度合、電気自動車やハイブリッドカーなどの次世代自動車に対する意識を調査し、事業内容の参考とさせていただきます。

※テーマ4では、各設問は自動車運転免許証を持っている人のみを対象とします。

問1 次世代自動車と一般自動車との購入差額

「10～20万円（の差なら購入する）」	30.7%
「20～30万円（の差なら購入する）」	25.2%
「30～40万円（の差なら購入する）」	10.3%
「50万円以上でも次世代自動車を購入」	6.9%
「買わない」	25.8%

問1-1 次世代自動車を購入しない理由

「4WDの車種が少ない」	21.7%
「好みのデザインの車が少ない」	8.0%
「車体や収納の大きさが希望するものがない」	2.8%
「車両価格が高い（ガソリン車の方が安い）ため」	23.1%
「燃費を気にしないため」	3.4%

問2 エコドライブの取組（複数回答）

	H26	H23
「エアコンの使用を控えめにする」	44.8%	50.2%
「駐停車する際はエンジンを止める」	41.8%	53.3%
「停車位置が分かったら早めにアクセルを離す」	41.3%	52.3%
「走行中、速度変動を抑える」	39.9%	47.1%
「ゆっくり発進する（5秒で20km/h）程度」	39.5%	21.3%
「高速道路では制限速度を守り、必要以上に加速しない」	32.5%	35.4%
「タイヤの空気圧を適正に保つ」	32.5%	36.8%
「走行距離の短いルートを選択する」	30.5%	39.3%
「エンジンをかけたらすぐに出発する」	25.3%	32.9%
「すぐに使わない荷物を降ろす」	24.3%	35.5%
「エコドライブに取り組んでいない」	6.7%	3.5%

問3 エコドライブの実践状況	H26	H23
「いつも行っている(80%以上)」	15.5%	29.9%
「だいたい行っている(50~80%)」	39.5%	39.8%
「たまに気をつけている(30~50%)」	25.6%	18.2%
「あまり行っていない(30%未満)」	7.5%	10.3%
「まったく行っていない(0%)」	6.2%	—

問3-1 エコドライブに取り組んでいる理由 (複数回答) ※上位4項目

「燃料費を節約するため」	88.1%
「エコドライブは安全運転につながるため」	43.1%
「環境への配慮を心がけているため」	35.5%
「自動車・カーナビ等にエコドライブができていくかわかる機能がついていた」	16.3%

問3-2 エコドライブを行わない理由 (複数回答)

「取り組み方を知らない」	48.4%
「エコドライブをするメリットがわからない」	21.6%
「到着時間が遅くなりそう」	17.0%
「エコカーに乗っているのだから必要ない」	6.0%

テーマ5 観光まちづくりに関する意識について (観光文化局観光コンベンション部)

平成25年度に策定された「札幌市観光まちづくりプラン」においては、観光振興とまちづくりを一体的に進める「観光まちづくり」の実現を目指しており、これに向けては、札幌市民が観光に対してどのような意識を持っているかを把握し、今後の観光施策の立案の参考とさせていただきます。

問1 過去1年間の観光旅行の回数

●道内旅行

「1回」	19.3%
「2回」	15.8%
「3回」	10.4%
「4回」	2.8%
「5回以上」	7.2%
「していない」	40.6%

●道外旅行

「1回」	19.8%
「2回」	7.9%
「3回」	3.2%
「4回」	1.2%
「5回以上」	1.4%
「していない」	50.6%

●海外旅行

「1回」	6.3%
「2回」	1.6%
「3回」	0.2%
「4回」	0.1%
「5回以上」	0.1%
「していない」	67.6%

問1-1 道内旅行の訪問地（複数回答）

「札幌近郊」	52.3%
「道央圏（空知、後志、胆振、日高）」	45.1%
「道南圏（渡島、檜山）」	29.3%
「十勝圏（十勝）」	25.0%
「道北圏（上川、留萌、宗谷）」	23.5%
「釧路・根室圏（釧路・根室）」	14.5%
「オホーツク圏（オホーツク）」	13.6%

問1-2 道内旅行をしなかった理由（複数回答）

「経済的余裕がない」	44.8%
「時間的余裕がない」	42.4%
「なんとなく旅行しないまま過ぎた」	21.5%
「健康上の理由で」	15.1%
「家を離れられない事情があった」	14.4%
「行きたいと思うところがない」	8.9%
「他にやりたいことがある」	7.3%
「一緒に行く人がいない」	6.4%
「計画を立てたり、準備するのが面倒」	4.6%
「出張などの旅行で観光もした」	2.1%

問2 より多く道内観光地を訪れるために必要なこと（複数回答）

「宿泊料や入場料などが安いこと」	61.9%
「交通費が安いこと」	48.6%
「家族と一緒に休みが取れること」	35.8%
「道路が渋滞しないこと」	32.0%
「観光地までの公共交通があること」	31.7%
「観光情報が簡単に得られること」	28.7%
「魅力的な旅行商品（ツアーなど）があること」	27.3%
「観光地を周遊する交通手段があること」	26.3%
「交通機関や道路整備により観光地まで早く行けること」	26.1%
「観光地が混雑しないこと」	22.2%
「バリアフリー化されていること」	7.6%

問3 観光客増加による生活の変化（複数回答）

「経済が活性化し、景気が良くなる」	65.4%
「街のにぎわいが増す」	52.1%
「札幌の良いイメージが他の地域の人により伝わるようになる」	50.2%
「交通が渋滞する」	22.7%
「市外・道外・海外からの来訪者と交流の機会が増える」	19.3%
「治安が悪化する」	14.7%
「街の美しさが損なわれる」	8.0%

問4 困っている観光客への対応

「自ら進んで声をかけて、自ら手助けする」	10.1%
「自ら進んで声をかけて、施設等の職員を呼びに行く」	4.3%
「助けを求められたら、自ら手助けする」	46.6%
「助けを求められたら、施設等の職員を呼びに行く」	13.7%
「声をかけたいが、どのように声をかけたらよいか分からない」	14.8%
「誰かが何とかするだろうと思うので、特に何もしない」	3.1%
「恥ずかしくて声をかけられない」	2.1%

問5 外国人旅行者増加の希望

「もっと来てほしい」	36.9%
「もう少し来てほしい」	14.0%
「いままでのままでよい」	21.9%
「もう少し減ってほしい」	1.7%
「来てほしくない」	2.4%
「どちらともいえない」	14.9%

問6 札幌のお勧めしたいもの（複数回答）※上位6項目

「食」	71.4%
「観光スポット」	40.0%
「自然・景観」	37.0%
「祭り・イベント」	27.1%
「お土産・商品」	26.3%
「街並み・都市」	18.5%

テーマ6 雪対策に関する取組について（建設局雪対策室）

持続可能な雪対策を推進するため、雪対策の中長期計画である「札幌市冬のみちづくりプラン」に基づき、効果的・効率的な除排雪を推進するとともに、「雪」に関する取組を、様々な媒体を活用して、情報提供・共有を図っております。この雪対策に関する取組を調査し、今後の参考とさせていただきます。

問1 冬の暮らしに関する情報を見た経験（複数回答）※上位6項目

「冬の暮らしガイド（広報さっぽろ12月号綴じ込み）」	63.2%
「テレビ番組（雪対策事業の紹介や、冬のルール・マナー）」	41.2%
「見たことがない」	16.8%
「テレビ（データ放送）」	15.1%
「札幌市雪対策室のホームページ」	8.7%
「その他刊行物（「パパは雪だるま!」、 「さっぽろ雪の絵本」 など）」	2.5%

問2 雪と暮らす工夫（複数回答）※上位6項目

「敷地内に除雪した雪を積むスペースを確保している」	33.5%
「特にしていない」	28.7%
「自費で民間の排雪サービスに依頼して雪処理をしている」	16.7%
「ロードヒーティングを設置している」	14.7%
「融雪槽を設置している」	7.4%
「間口（玄関前や車庫前）の雪を、利用のルールを定めた公園に運んでいる」	6.9%

テーマ7 安全・快適な乗車に向けた利用マナーについて（交通局高速電車部）

市営交通を利用する際の乗車マナーについて、普段気になっていることなど市民の意識を把握し、安全・快適な乗車環境を醸成する活動につなげます。

問1 地下鉄を利用する目的

「買い物」	35.9%
「通勤」	18.7%
「使用しない」	11.9%
「通院」	10.6%
「レジャー」	10.0%
「業務中の移動」	1.9%
「通学」	1.6%

問 1-1 地下鉄を利用する時間帯

「7時前」	1.8%
「7時～9時」	20.2%
「9時～11時」	24.9%
「11時～13時」	16.4%
「13時～15時」	8.9%
「15時～17時」	2.3%
「17時～19時」	4.0%
「19時～21時」	1.3%
「21時以降」	0.6%

問 1-2 地下鉄でのマナー

「非常に良い」	3.5%
「良い」	23.6%
「ふつう」	60.9%
「悪い」	9.3%
「非常に悪い」	1.4%

問 1-3 マナーや安全に関する啓発を見聞きした経験

「車内に掲示しているポスター」	64.2%
「駅構内に掲示しているポスター」	47.4%
「車内放送」	40.2%
「駅構内放送」	29.5%
「駅員の声掛け」	11.7%
「ティッシュ配り」	1.8%

問 2 地下鉄利用時の快・不快状況

【車内での行動】	非常に不快	やや不快	気にならない
「仲間同士で大声で騒いでいる」	53.6%	39.9%	6.4%
「携帯電話、スマートフォンで通話している」	46.8%	42.6%	10.7%
「携帯電話、スマートフォンの着信音が鳴る」	16.4%	51.1%	32.5%
「携帯電話、スマートフォンでメールやゲームをしている」	9.0%	24.2%	66.8%
「携帯電話等電源オフエリアで携帯電話等を使用している」	39.0%	44.6%	16.4%
「ヘッドホンから漏れるほどの音量で音楽を聴いている」	44.6%	44.1%	11.3%
「席を詰めて座らない」	44.7%	47.6%	7.7%
「健常者が専用席に座っている」	37.9%	43.3%	18.8%
「乗降口付近に立っている」	15.3%	40.3%	44.5%
「化粧をしている」	35.9%	40.0%	24.1%
「混雑した車内での荷物の持ち方、置き方」	23.3%	59.7%	17.0%
「新聞を広げて読んでいる」	30.1%	53.2%	16.7%
「車内での飲食」	36.7%	44.0%	19.3%
「ゴミを捨てる、置いていく」	87.8%	10.4%	1.8%

【駅構内・ホームでの行動について】	非常に不快	やや不快	気にならない
「ホーム混雑時、4列に並んでいない」	20.2%	57.4%	22.4%
「ホーム階段の歩行区分を守らない」	21.1%	59.0%	19.9%
「降りる人より先に乗ろうとする」	65.4%	31.7%	2.9%
「携帯や本を見ながらのながら歩き」	42.5%	44.5%	13.0%
「エスカレーターを立ち止まって乗っている」	5.5%	15.9%	78.6%
「エスカレーターを歩いて（走って）いる」	15.8%	28.2%	56.1%

結果の概要は札幌市HPに掲載します。
[http://www.city.sapporo.jp/somu/shiminokoe/citi_enq/]